

# インディアナ日本語学校便り

だいごう  
第10号

令和7年6月21日事務所 317-255-1631 メール [ijls@indiana-j-school.net](mailto:ijls@indiana-j-school.net)

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

## 「2025年度第1学期終了」

### ～笑顔溢れる日本語学校～

校長 森 勝義

今日で2025年度第1学期が終了します。

今は日本語学校に笑顔が溢れています。本当にこの一学期、学校にかかわるすべての方々がお一人おひとり、子どものために、学校のために、そして保護者の方々、ご自身のために頑張ってくられました。皆様、ご自身を誉めましょう。

服部会長をはじめとする、保護者の会の役員の皆様をはじめ、ベル当番、バス当番、図書係、安全パトロール、救護、コピー係、国際部ボランティアなど、本当に多くの方々が日本語学校を支えてくださっています。

手前味噌かもしれませんが、あえてここで、日本語学校先生方の自慢をします。もし、わたしが同じ立場でしたら、到底できません。自分の仕事を持ちながら、なおかつ教えることに生きがいを感じ、毎回子どもたちのために、日本語を忘れてほしくないために、算数を理解してもらうために、それはそれは寝る時間を惜しんで教材研究をされ、授業に臨んでます。それを垣間見られたのが授業参観だと思います。

また、保護者の方々の教育に対する熱い想いが、教室に入りきれないほどの保護者の参観があるということ、個々の先生方も重く受け止めています。

しかし、どうしても授業後、評価は個人についてまわります。日本では相対評価から絶対評価に移行しました。ある学校によっては、テストをなくし、「通知表」をなくしている学校も増えてきています。そのことについて私は意見は致しませんが、校長の意思を学校に反映させていることだと思います。本校では、日本語の理解が難しい子、宿題、課題をしっかりとやってくる子、授業への臨む態度が前向きな子、そんな一途に頑張っている子どもたちを我が日本語学校の先生方は、しっかりと見守ってくれています。

本日、渡される「学習の記録」の所見にはお子様への想い、期待、つれづれと書かれています。担任の率直な心の気持ち、ぜひ、受け止めて、お子様と共有してください。

日本の公立校では本校での「学習の記録」の呼び名が「あゆみ」や「通知表」と表記されています。公文書である指導要録及びその写しのうち入学、卒業等の学籍に関する記録については、その保存期間は20年間、指導に関する「通知表」の記録については5年間保存することになっています。卒業生台帳は終生保存となっています。保護者の方々の卒業証書にはご自身の卒業番号が記されているのを目にされたことがあると思います。日本語学校の卒業証書にも卒業番号が記されています。1981年創立以降、44年の重みを感じると思います。私の教員生活の歳と同じになりました。

皆様、楽しい夏休みをお過ごしください。そして7月26日、第2学期始業式で笑顔で会いましょう。

「待ち伏せを読んで」

高校1年 王 初音

私は何事も深く考えすぎてしまうタイプの人間です。なのでどんな些細なことでも人に對してダメな対応をしてしまったと思えば完全に再起不能となります。そうなった時引きずってしまう感情が自己嫌悪です。焦りでも怒りでも悲しみでもなく、どちらかというとなんか全てをごちゃごちゃな煮込みシチューにしたようなもどかしいこの感情は誰でも味わった経験があると思います。待ち伏せの作者、ティム・オブライアンも例外ではないはずです。いくら自分の身を守るためだとしても、戦争中で周りの状況がそうさせたのだとしても、人を殺してしまったという、現実を突きつけられます。作者は大きな過ちを犯し、人の道を外れ、まるで悪魔になったような気分になったのではないのでしょうか。それこそ実の娘にも教えられないような罪悪感を一生抱え、ふとした瞬間に思い出すほどまでになったのでは無いのでしょうか。なぜ人々がこのような思いを戦争のせいではないのでしょうか。

私は今まで六つの違う学校で学んできました。そして歴史の授業では先生たちは皆口を揃えて”戦争はいけません”といます。ですが段々内容に入っていくうちに、それぞれの国の立場がバイアスとして入り始めるのです。そう言う時ほとんどの場合、自分たちは”被害者”であり、相手が完全なる”加害者”であるというような対極な構造で歴史を語るのです。先生達以外にも教科書や漫画など、真実を教えるはずの教材が自分の国の立場から歴史を語り、戦争の中でリーダーとなった偉人達を讃えるのです。しかし戦争を始めたのはそのリーダー達で、自他の国の人々の日常を奪い、戦争へと人々を駆り出し利益への欲求を正当化して、何百万人もを簡単に殺すのです。

戦争の被害はその時代だけには収まらず被害はただただ溢れ出るばかりです。現在でも戦争は世界の各地で起こっており、何の決定権もない無実な人たちの人生を奪っているのです。人々の間に壁を作り恨みあいを生み出し何になるでしょう。どんな正義論を使おうと戦争に関与した時点で、皆、少しずつ悪いのです。完璧な人がいないように完璧な国などなく、それさえ自覚されれば、何人の命と幸せを守り、主人公のような葛藤を抱えた人を救えたのでしょうか。この物語が書かれてからもう三十年、ですが世の中にはいまだに作者のように戦場に赴きその恐ろしさ、罪悪感、そして自己嫌悪に縛られた人が山ほどいます。戦争の犠牲者は亡くなった方々だけではなく生存した兵士たちも苦しめています。なぜそれほどの犠牲を出しても戦争は続くのでしょうか。人々はなぜ戦争に人生を滅茶苦茶にされなければいけないのでしょうか。

「帰り道」を読んで

小学6年2組 高橋 悠珠

私は、「帰り道」の律と周也、どちらともに同感しました。

まず律に同感したところは、律が「どっちかな?」「どっちもかな?」って言うところで、私も初めて話す人や、あまり話したことのない人によく言います。でも、友達やなじみのある人には、気をつかわずに気軽に話せます、

そして私が律すごいと思ったところは、律が周也にあやまる時、「今だ、今言わなきゃ、二度と言えない」と思って本当に今言ったのがすごいと思いました。なぜなら私はだれかとケンカした時、すぐあやまれずに、後からあやまります。なのでそれが私の中での律のすごい所でした。

そして周也に同感したところは、つい言わなくてもいいことを言ってケンカになることです。他のことでイライラしている時とかについ言わなくてもいいことを言って、ケンカになることがしょっちゅうあるからです。

あと私が周也はすごいと思ったところは、ケンカ中なのに、かんか相手にポンポンしゃべりかける所です。なぜなら私はだれかとケンカをしたとき、なるべくケンカ相手には話

しかけません。なので私は周也は勇気のある人だと思います。

私が帰り道を読んで思ったかとは、友達どうしいつかはケンカもするし、言い合いもするけど、私はそのやり取りが大切だと思います。私は友達とケンカをするにつれ、より仲良くなった気がするからです。

「帰り道」を読んで

小学6年2組 池田 菜々音

私は帰り道を読んで、律と私は似ているなと思いました。なぜなら律は「海と山はどちらが好き」って聞かれたところで、私は海は海でしかできないことが出来るし、山には自然が楽しめるし、いろいろ考えてしまうからです。周也みたいに「海がいい」と言いたいけど、「どちらかな」という優柔不断な所が似ているなと思いました。

私は、周也は静かにしてほしいと思いました。それは律が選んでいる時に周也が律に「こっちも好きってのは好きじゃないのといっしょじゃない」と言って、律の心が折れる事を言った時です。律が選ぶのを静かに待ってあげたらいいのになと思いました。でも周也も律がとても傷ついているのを知って、野球の練習を休んでまで、律のことが気になっていたんだなと思いました。

二人の視点からそれぞれ書かれていることによって、両方の気持ちがよく分かりました。私はこのお話を読んで、ちゃんと相手の気持ちを知ることが大切なんだなと思いました。なのでこれから友達とすれ違いがあったときは、自分だけでなく、相手の気持ちも考えてみようと思いました。

国語単元「都道府県の旅」に関連して

「京都の旅のしょうかい」

小学4年1組 内川 侑弦

去年の夏に家族で京都に旅行に行きました。場所は清水寺、銀閣寺、金閣寺、北野天満宮へ行きました。

清水寺は清水の舞台が有名です。役人のけびいし だただあきらが悪党に追いかけられ観音様に祈りながら舞台から飛び降り無事に逃げ去ったという伝説があります。「清水の舞台から飛び降りる」は思い切ったことをする時に使われることわざになっています。

銀閣寺は整然と形作られた白砂や青々とした苔が調和した庭園禅寺の静かな雰囲気が生み出す美しさが印象的。また椿やツツジなど花々や紅葉、雪景色など四季それぞれに素晴らしいながめが楽しめるお寺として有名です。

金閣寺は室町幕府の第三代将軍の足利義満が作ったもので、銀閣寺を作った第八代将軍足利義政のおじいさんにあたります。

北野天満宮は菅原道真公の神様で有名で、全国約1万2000社の天満宮、天神社の総本社です。今度は東寺と渡月橋に行ってみたいです。

「北海道は、楽しいよ」

小学4年1組 西脇 楓悟

ぼくは、二年に一度、日本へ帰ります。日本に帰る時は、北海道と東京に行きます。なぜかという、北海道では、ぼくの母の、東京では、父のおばあさんとおじいさんが住んでいるからです。北海道のすし、ラーメン、じゃがいもとソフトクリームはとてもおいしいです。この中でとくに有名なのは、すしとラーメンです。すしが有名な理由は、北海道は魚がとれる量が日本一だからです。冬になると、有名なさっぽろ雪祭りが行われていて、四メートルほどの雪で作られたちょうこくを見ることができます。みなさんも、ぜひ北海道に行ってみてください。

## 「京都のいろいろ」

小学4年1組 山本 央理

ぼくは、京都府を選びました。えらんだ理由はお父さんの生まれた所であり、大好きなおじいちゃんおばあちゃんがいるからです。

まずは、京都の有名な食べ物です。有名な食べ物は、京野菜です。京野菜はいわゆるつけものなどにつかわれます。かもなす、まんがんじとうがらし、しょうごいん大根、九条ねぎなどです。次は京都で出会った人たちです。出会った人たちは、お父さんの兄や弟さんです。そしておぼんや年末には京都にみんなで集まるのでいところにも会えて遊ぶのもとても楽しいです。最後に京都の風景です。京都は家や店がたくさんあります。そして車もたくさんはしっています。おばあちゃんの家近くには大きな神社もあります。こうしてまとめてみると京都は都会だけど古いものもたくさんあることがわかりました。そんな京都がぼくは、大好きです。

## 「みんな来てね愛知県」

小学4年1組 北川 祐菜

わたしが調べた都道府県は、愛知県です。えらんだ理由は、わたしが愛知県で生まれて、そこで育ち、友達がいっぱいいるからです。

愛知県では、自動車の町と言われる豊田市を中心に、たくさんの自動車が作られています。愛知県の名物はアサリです。いせわん、みかわわんは、ゆたかなぎょ場で、アサリ漁がさかんだと、家にある都道府県の本にのっていました。

わたしは、日本に帰ったら、早く愛知県に帰って、友達に会いたいです。

## 「千葉県の思い出」

小学4年1組 梅田 惇平

千葉県が大切な理由は、ぼくの家があるからです。千葉県の形は横向きの犬の形をしています。ぼくの家は、犬の鼻先にあたる千葉県の野田市にあります。野田市は、清水公園のさくらとアスレチックが有名です。また、清水公園の近くにポニー牧場があり、動物がいっぱいいて、馬にのったりえさをやったりできます。それで、ぼくのおうちはポニー牧場の前にあって、年間パスポートを買って毎日のように行っていました。この中で一番好きな場所は、ポニー牧場です。なぜかという、ぼくが一才の時から行っていて思い出がいっぱいあるからです。ポニー牧場で一番好きな事は、馬に乗ることです。すわっている時は、生きているいすにすわっているみたいでドキドキしました。なぜかという、体が右に行ったり左にいたりして落ちるかなと思うからです。野田市でいっぱい思い出があるので、みんなも行ってみてください。

### 6月14日作品

### 土曜パラダイスで紹介

- 小学4年1組 梅田 惇平 「父さんも 心が躍る 夏祭り」  
小学5年1組 荒川 岳 「あきちかし さんまがやけた いいにおい」  
小学5年1組 野澤 つばさ 「トルネード ものおきべやに ひなんする」  
小学5年1組 西藤 あおい 「打ち上げて 夜空に咲いた 花火かな」  
小学2年2組 福原 きい 「べんきょう きんようびまで やるきない」  
小学5年1組 坂 條太朗 「夏の空 いいたまうって 試合に勝つ」  
小学5年1組 安藤 優利 「まなつびに からだをひやす かきごおり」  
小学5年1組 斎藤 晴太 「なつやすみ てせいふうりん うまいかな」  
中学1年1組 えらんでくれよ 「えらんでよ このさくひんを えらんでえ」

### ダジャレコーナー

- 小学3年2組 後藤 楓 「おのをおとした Oh NO」  
小学3年1組 ロス あき 「にんじゃが なんいんじゃ」  
小学4年2組 あんどう輝人 「すなを よごすな」